

第3回南砺市総合計画審議会  
会議録

期 日 平成18年8月3日(木) 午前10時00分から  
会 場 南砺市役所福野庁舎 2階講堂  
出席者

北 田 正 雄	会長	川 合 声 一	副会長
島 田 勝 由	委員	夏 野 修	委員
倉 一 雄	委員	山 崎 正 大	委員
嶋 信 一	委員	奥 野 達 夫	委員
大 西 正 隆	委員	川 合 友 之	委員
水 木 猛	委員	齋 藤 昭 一	委員
小 林 敏 夫	委員	藤 井 貢	委員
米 澤 博 孝	委員	清 水 壽 一	委員
山 本 秀 夫	委員	塚 田 久 俊	委員
池 部 恵 子	委員	寺 井 孝 夫	委員
鵜 野 孝 徳	委員	中 藪 淳 一	委員
花 島 榮 一	委員	永 井 正 夫	委員
渡 邊 久 雄	委員	桜 井 光 雄	委員
松 本 誠 一	委員	岩 田 繁 子	委員
		宮 本 佳 子	委員

欠席者

吉 岡 勉 委員

市当局

溝 口 進	市長	清 都 邦 夫	助役
山 本 勝 徳	収入役	梧 桐 角 也	教育長
中 山	市長政策室長	大 家	総務部長
向 川	民生部長	堀	産業経済部長
畑	建設部長	平 本	議会事務局長
西 村	医療局長	重 原	市長政策室次長

事務局

松 田	企画課長	安 川	企画課主幹・企画係長
上 口	企画課企画係副主幹	松 田	企画課企画係主査
池 田	企画課企画係主任		

- 市当局   ★司会進行  
★配布資料の確認  
★委員交代報告(福野商工会長 西能委員→花島委員)及び紹介
- 会長      「皆さんおはようございます。今回は総合計画の基本的なものが出来上がったようですので、事務局の説明の後、ご意見をいただきたいと思います。市長さんもお列席でございますので、ご挨拶いただきたいと思います。」
- 市長      「委員の皆様方には日頃からたいへんお世話になり、厚くお礼申し上げます。審議会も第3回になり、具体的な検討が始まりますが、南砺市になって市として一つの方針に固めていくという場合には、たいへん摩擦が起きやすくいろんなご意見があるということを感じています。今年の3月から多少手がけておりますが、440ある市の公の施設を圧縮しなければならない。あるいは指定管理者制度により民間のお力で運営をしていただくということも進めていきたいと思っております。総合計画は行政の指針でありますので、いい計画に仕上げさせていただきますようお願い申し上げます。」
- 会長      「先日配布した会議録について、ご了解をいただければ情報開示したいと思います。すが、いかがでしょうか。」
- (異議なし)
- 会長      「それでは、お手元の資料について説明をお願いします。」
- 事務局   「今回の資料は、我々が考えた、あるいは市民の声をまとめたものです。最初のページ、現況ですが、従来市として取り組んできた事業の具体的内容を掲げております。2ページ目ですが、この課題については現況を踏まえながら、これから伸ばす点、改善すべき点は何かということで、職員の中で掘り下げたものです。次に3ページ、市民のニーズですが、市民アンケート、市政懇談会の意見、あるいはホームページ、市長の手紙などからストレートにあてはめています。次に目指すべき姿ですが、これは10年後のイメージを踏まえながら、どのような夢を描くかを書いております。次に事業メニューですが、これは全ページ記載しておりません。予算が伴う事業計画ということで、実施計画策定の関係から伏せさせていただいております。次に主な指標ですが、なんとベンチマークという愛称ですが、10年後、5年後の目指すべき具体的な目標値を掲げております。皆さん方の意見をお受けして、まとめ上げたいと考えております。」
- 会長      「委員の皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。」
- 委員      『「心豊かで創造的なまちづくり』の指標で、平成23年までに市内の高校の大学・短大・専門学校への進学率65%を目指すというのは、家庭の事情や、自らの考えで就職される方もいらっしゃるのでは、いかがなものかなと思います。」

- 市当局 「ご指摘のとおり、課題と記述内容がずれていると思います。これは改めて検討させていたいただきたいと思います。」
- 委員 「いろんな目標数字が出ておりますが、再検討していただき、市がやることと、市民が動くことと別な形がしますので、市民の数字として出すのはいかがかなと。市政として目標を持つことは必要だと思いたしますが。」
- 会長 「具体的数字がいくつか挙がっていますが、これについて事務局の考えは。」
- 事務局 「ベンチマークについては、行政も市民もこの目標に向かってがんばろうということで、また検討させていただきます。次回また絞り込んだものをご相談申し上げ、まとめ上げていきたいと思いたします。」
- 会長 「目標はできるだけ高く考えていただきたいと思いたします。十分検討願いたします。」
- 委員 「この前いただいた総合計画の構成案の中に、基本計画の次に実施計画があるのですが、次の段階で実施計画が出てくるのですか。」
- 事務局 「次回の計画については、基本構想に係るみんなで目指す目標が決まっていませなし、10年後の人口の位置付けもまだです。今回は基本計画のこの素案をまとめたものをお示ししたいということで、実施計画は少し後になります。」
- 委員 「基本計画は今後 10 年間で取り組む施策の内容を示すものなのに、この資料では、ほとんどが 23 年目標で書いてあります。23 年目標は実施計画の中で示されるものではないか。それと人口減少と少子高齢化社会への対応についての取り組みが書かれていないと思いたしますが。」
- 事務局 「これは一つの表ということで、目標の 28 年度まで数字、グラフで位置付けたいと思いたしております。少子高齢化対策については、32 ページに記載してあること一つ一つが少子化対策のエキスになると考えております。いろんな面で、育児に対する協力とか、地域社会で取り組んでいかなければいけない部分もありますが、もう一度点検しながら進めたいと思いたしています。」
- 委員 「これは生まれた子どもを育てる部分であって、子どもを増やす部分を私は言いたかったのですが。」
- 市当局 「少子化対策は、様々な分野にわたる施策が必要です。例えば、生み育てやすい環境といいたしますと、子育ての関係が出てきますし、不妊治療助成や企業の努力など、様々な施策をちりばめることになると思いたします。今のご指摘を踏まえ対応していきたく思いたします。」
- 委員 「『克雪・親雪・利雪の推進』について、現況並びに課題、そして目指すべき姿の中に、親雪、利雪の記載がないように見受けられますが、施策が必要ならば記

載しておかなければならないのではないかと思います。」

市当局 「ご指摘のとおり、持ち帰って親雪・利雪の部分について考えたいと思います。」

委員 「芸術文化について、南砺市は富山県のほかの市と比べ文化や文化財のストックが非常に大きく、南砺市の顔にすべきだと思います。一方で8町村それぞれのことをやっていたので一元管理する作業が必要です。その場合、美術品や文化財、民俗資料など、そういうストックを生かすも殺すも継承するも、これは人の問題であると思います。博物館や美術館には学芸員という専門職がいますが、そういう人材を育成すべきだと思います。また、民間の支援団体の育成ももっと強調していただければと思います。」

会長 「まだ8町村から抜けきらないところがありますが、一元化や効率的な運営について、よい事例がありましたらコメントいただきたいと思います。」

委員 「最近の中では富山市の森市長さんと高岡市の橋市長さんのお話が印象的でしたが、一番考えておられるのは新市の融合、心の融合ということでした。私たちから見るとこの資料に書いてあることの重要度は見えてこないところがあります。どのくらいの予算の数字になるのかということが具体的につまびらかにされて初めて、これはこんな順番でやりませんかという話になると思います。まずしなければならないのは、どこからはじめなければならないかということだとおもいます。事務局としての優先順を示していただいたほうが議論できるし、そういう中で新市の融合をどうやって図るかということができないのではないかと思います。それから例えば夜高祭りに利賀の人が参加する、逆に他の地域の人が利賀の祭りに参加するということをやって、融合を図ることを考えていくべきではないかと思います。」

会長 「総合計画に対して議会で相談した経過がありましたら、ご発言いただければと思います。」

委員 「昨日の臨時議会において、本日の資料に基づき議員の皆さんの意見をいただきたいと思っておりましたが、機会を失っている現状です。改めてそういう場を設置したいと思っております。」

委員 「我々も具体的な施策の提言を毎年やっておりますが、今年、保育園は第4子からは無料になりましたが、総合計画にこういうことを具体的に書くというふうにはいきません。観光の問題にも取り組んでおりますし、行政改革の問題にも提言申し上げるつもりでおりますので、ご了解願いたいと思います。」

会長 「厳しい財政の中でどんな夢が描けるのか、どんな新しい南砺市づくりができるのか、大方の市民の意見だろうと思います。そうしたことを計画に組み込んでいただき、その中で新しい方向付けが見出されればと思いますので、ご協力をお願いします。」

- 委員 「男女共同参画のところで、目標値の参画推進員 73 名はどういう目的で出されたのか。それと、委員会の女性委員を 25%に伸ばすということについて質問したいと思います。参画推進員については、当初いろんな基本条例や制度をつくるため必要性を感じておりましたが、もう男女共同参画というのは一人ひとりの意識の問題だと思います。そういうことを踏まえて、この参画推進員づくりは慎重に進めてもらいたい。」
- 市当局 「この数字は地域的なバランスも含め、これだけ増やしたらどうかということですよ。詳しい根拠は事務方へ問い合わせます。推進員のあり方については推進員の活動をというものもお互い尊重しあうということをお願いしたいと思います。」
- 委員 「推進員は県の推進員と市の推進員合わせて現在 66 人になっておりますが、私どもは市の推進員一本でいいのではないかと考えております。この 73 人というのは、100 人でも 150 人でも増やしたいと思っておりますが、各地区でバランスをとって決めた人数だと聞いています。女性委員 25%ですが、男女共同参画社会をつくり上げるためには、4分の1あるいは3分の1くらい女性がいてもいいと思います。それから男女がともに3分の1ずつ家庭・職場・地域で生きているのに、各企業、職場には男女共同参画の担当者がいません。これを県にも申し上げ、今年初めて県で 10 社くらいが担当役員を貼り付けられ、職場内でも男女共同参画のこの運動を盛り上げようとしています。最後にこの総合計画の審議のあり方ですが、もっと小ブロックに分けて審議されたらどうかということをご提案します。もっと皆さんに分かりやすくいくつかのブロックに分け、真剣に討議していただいたものを答申していただくというふうをお願いいたします。」
- 会長 「審議のあり方を小ブロックに分けてということですが、当局と検討したいと思います。しかし、いくつかのセクションがあり、事務をまとめるスタッフも必要であることもご理解いただければと思います。この地域の産業発展ということで、農業の面からご意見いただければと思います。」
- 委員 「国の農政そのものが猫の目以上に変わるので、また南砺市も中山間から平野部まで条件が違うので、一律的な政策でものを進めるということに無理があるのではないかと思います。目標数値は 23 年になっておりますが、それが 10 年後になっても難しいのではないかと思います。」
- 会長 「中小企業や商業の関係の方がたいへんご苦労していただかないと、大型店舗などにより地域の活性化がそがれるということも多いと思いますが、それらの問題も含めご意見をお聞かせいただければと思います。」
- 委員 「昨日東海北陸ブロックの会合がありましたが、東海北陸道が来年度開通することから、関係する石川・富山・岐阜・愛知の 4 県が今後さらに連携を深めて取り組んでいきたいということでした。大型店ということですが、法の見直しな

ど中心市街地の活性化ということで、県のほうでも力強く取り組んでいただいておりますので、私どもとしても真剣に考えていきたいと考えております。」

会長 「観光についてご意見をいただければと思います。」

委員 「観光の関係においては、現状も課題も言ってみれば網羅しただけで、従ってそれによってどのような将来像も見えてこないというような内容が多いのですが、これから答えが出てくるだろうと思いますけれども、しっかりした指針を示してもらいたいなと思います。観光連絡協議会のほうでは8つの観光協会に温度差があるということで、急にことが進まないということがありますが、委員の皆さんがたには大いに前向きに取り組みを進めてもらっておりますので、総合計画が出来上がると同時に観光協会のほうも結論を出していきたいと思っております。」

委員 「南砺市の商業において、特色ある商店街の形成ということになると、今の観光と関係があるのですが、交流人口を増やす、どう観光で売り出すのかということをしちっとこの中で示して、そういう方向へみんなで行こうというふうにしていっていただければありがたい。この地域はやはり観光が観光客の誘致をしちっとし、交流人口を増やしていかないと、これからの商業は生きてゆけないというのが現状かと思えます。その辺りのところに力を入れて示していただきたいと思えます。」

会長 「私は人材育成が南砺市における今後の方向付けの柱の一つだと思います。幼・保一貫教育や小・中、中・高一貫という問題も出ております。南砺市においては南砺総合高校という名で4つあるわけですが、この方向付けがどうあるべきか日頃から心配しております。またこれからは国際人となってくれる子どもの育成ということも大切でないかと思えます。このことでご意見いただければと思います。」

委員 「中・高一貫、あるいは小・中一貫については県レベルで研究されていると理解しております。このほかに国際交流については、それぞれ基金を持っておりましたが減少しており、新しい財政基盤が必要であると考えております。来年から小学校で英語が必修となりますが、これは避けて通れないと認識しております。こういうことで国際感覚を子どもたちに付けていくということは、たいへん必要なことだろうと考えております。新しい市として引き継いだこの国際交流を、どのように発展・維持していくかということを実際に考えていきたいと考えています。それと、団塊世代の大量退職の時期が来ており、この方たちに生きがいを与えるシステムを南砺市で作っていかねばならないと思えます。シルバー人材もそうですし、農業もそうです。なにかこの受け皿を作ってあげればどうかと思えます。」

会長 「生活習慣で病気になるたいへん難しい時代になりました。学校の中に食育教育が入ってくるような時代になりました。こうした点についてコメントいただけ

ればありがたいと思います。」

委員 「この資料の中には健康づくりについて記載がされておりますし、食育についても少しふれておまして安堵したわけですが、どんなにすばらしい『創造的な元気なまちづくり』とか、『活力あるまちづくり』とかいいましても、やはり基本は食ですから、それをもう少しここへ入れていただければということを感じています。それから今、障がい者の自立支援について頼まれています、障がい者の自立するには、自分でご飯さえ炊けないわけです。それをどのように支援していくか、今模索しているところです。」

会長 「高齢化の時代、福祉もたいへんな時代を迎えていると思います。福祉の面からご意見があれば。」

委員 「非常にこの福祉の問題は難しく、ここに書いてあること全体が福祉の問題だと思っております。だからこれをとか、あれをとか、一つの問題だけを取り上げて福祉を語るべきではないと思っております。全体の福祉の中で何を一番に心配すべきか、配慮すべきか、それは当然あると思います。私は今日の会合は実際提案なさった方のほうから説明なさって、それに対して足りない部分や、それはこうじゃないかという会合かなと思っておりましたが、やはりこういう基礎をお作りになってお出しになる以上は、基礎をお作りになる皆さんのほうで、細かく質問なり、意見を集約して出していただいたほうがいいのではないかと思います。」

委員 「私は第2回の際に、30名の委員さんがいらっしゃるのだから、分担してやったほうがいいのかということをお願いしていたのですが、大きい審議会ではこういうパターンにしかないのでしょうか。今日は各部門から選ばれた30名の方がでいらっしゃるのだから、均等に発言できる場づくりをしていただいたほうがふさわしいのではないかと思います。それから資料には企業誘致についてあまりにもウエイトがな過ぎるように思います。我々南砺市としてはやはりそういうものをしっかりと根付かせていかなければならないと思います。」

委員 「前回、人口問題が出ていました。人口が減っていくのだと、日本の国も減っていくといわれている中ですが、増えているところはたくさんあるわけです。現状維持しながら施策を展開していくということばかりをこの中で謳っていても、将来の夢はない。どうかして人口を増やせないかということが施策の中に出てこない、南砺市の意味はないと思う。それで企業誘致のことをもっと力強く、真剣に、一つの夢を出していく必要があると思います。一方、南砺市には若者をどうしていくかという話が大切です。そのときには高等教育とか大学誘致ということがあるわけですが、それぞれの町村でなしえなかったものが南砺市になってこそ力強く展開できるということでない、この総合計画がやはり総花的なもので終わってしまう気がします。何とかして人口を増やすという施策が見えなさ過ぎるという気がしますので、その辺を念頭にお願いま

す。」

会長 「南砺市の将来を占ううえには、青年の意見が大切であろうと思いますので、ご意見をいただきたいと思います。」

委員 「特にこの中で青少年の育成という部分を書いてありました。それに教育という部分もありますが、これから育っていく 10 代、20 代の皆さんがこの指針を見て、もっと南砺市をよくしていただけていく指針でなくてはならないと思いますので、そういう部分をもっと充実していただきたいと感じました。そして全体的には南砺市らしさという部分が少し分かりにくいのかなど。さすが南砺市だなという総合計画であれば、作成に携わった一人として南砺市発展に責任を持って関わっていききたいとも感じますので、そういうところも検討いただきたいと思います。もう一点ですが、国際的な子どもたちを育てることは非常にいいことだと思いますが、英語を充実する分、より一層南砺市、日本の文化といますか、日本の国を大切にすることを充実していただけるような内容もこの総合計画に組み入れていただきたいと思います。」

会長 「県全体から見て、総合計画のあり方などコメントがありましたらお願いします。」

委員 「審議会のやり方や計画の書き方について、スタイルだけちょっと言いたいと思います。現況、課題、その結果、目指すべき姿の書き方も統一がとられていないので、書き方の統一をやらないとちょっと読んでもわからないと思います。それから市民ニーズも生の声そのまま書いてありますが、非常に分かりにくい。それから、8 町村が合併してできた市なので、合併後の市の一体性を高めるとか、合併のメリットを活かすということをもう少し書いてあってもいいのではないかと思います。多分この前の総論のところ少し書いてあったと思いますが、その具体のものがこの個別のものに反映されていないというふうに思います。それから運営の仕方ですが、それぞれの考え方があると思いますが、県では 3 つくらいの部会でやって、あと総合部会もやっています。それはそれぞれの考え方でしょう。あと、会合で意見を言うのはもちろん大切でしょうけど、普段から自分の関心ごととか思いをメールなり文書で事務局へ出すようにしておかれれば、もう少し個別の話ができるのかもしれない。」

会長 「時間がきておりますが、最後に何かあれば。」

市当局 「先ほどの男女共同参画推進委員の人数のことですが、旧町村時代の合計が 80 であるということで、段階的にその 80 へ近づけたいということです。ただ、活動あつての人数だろうと思いますので、また分科会で再調整させていただきたいと思います。」

委員 「これから資料に目次を付けていただければ分かりやすいと思いますので、お願いします。」

会長 「次回の審議会の予定など分かる範囲でお繋ぎしてください。」



事務局 「お疲れ様でした。今回は 10 月にさせていただきたいということで、改めて事前に日程をお知らせします。8 月中に本日の素案をまとめる作業に入り、本日のご意見も織り込んでいきたいと考えております。」

会長 「最後に総合計画策定委員長の清都助役に挨拶いただいて、閉じさせていただきます。」

助役 「長時間にわたり活発なご意見をいただきありがとうございました。資料は専門部会で関係部署が寄って、いろいろ検討して作らせていただきました。これからももう少し整理した形にしていかなければならないわけですが、皆さんの意見を十分参考にさせていただきたいと思っております。国、県の改革も念頭におきながら 10 年後の南砺市の目標、イメージをどう考えるのか、どう施策の展開を図っていくのか、その辺のバランスをうまく取りながら南砺市の将来の発展に繋がるよう努力させていただきたいと思っております。十分皆さん方の意見をいただく機会を作らせていただき、進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。」

会長 「長時間ありがとうございました。第 3 回の総合計画審議会をこの辺で閉じさせていただきます。」

時：11 時 50 分